

木村文助研究

通信9号 2004・4・1



「新・村の子供」《マルメロの木》

当ぶんぼけんでは「村の子供」(文助編著) 発行八〇年を記念し昨年町内小学生の作文を募集したところ一三八点集まった。

作文入選者選定委員会(木下、小林(亜)、古侯、国塚、杉目、米澤)を組織し二〇点(最優秀賞一〇・優秀賞一〇)を選び文集「新・村の子供」を作成した。

会長が各小学校へ伝達した。入賞者へ賞状と文集、最優秀賞・優秀賞、参加賞を贈った。

最優秀賞

- 「ぼくのすきなおおのちよう」 大野小一年ふじいよしなり
- 「おばあちゃんのお手つだい」 島川小二年 前田なつみ
- 「むかしの千代田」 島川小二年 市原なつみ
- 「心の中の大切な言葉」 大野小六年 若山史織
- 「親切な町、大野町」 大野小六年 武田光史
- 「たった一言の大切な言葉」 大野小六年 西村美咲
- 「危険な駐車場」 大野小六年 佐々木徹
- 「すばらしい施設よりも大切なこと」 大野小六年 中谷宏基
- 「大野町の生き物」 大野小六年 佐々木勇輔

優秀賞

- 「大野町」 市渡小二年 藤野梨菜
- 「大野のおいしい水」 島川小六年 木村 圭
- 「働きものの家族」 島川小六年 佐々木梢
- 「やさしさあふれる大野町」 大野小六年 工藤美咲
- 「みんな安心して住める大野町」 大野小六年 斎藤理介
- 「みんなが友達、大野町」 大野小六年 鎌田竜史
- 「今の大野町に対しての考え」 大野小六年 福原偲乃
- 「今・未来の大野町」 大野小六年 桐山遼太
- 「今と未来の大野町」 大野小六年 杉本 謙
- 「私の思う大野町」 市渡小六年 梅津真穂

二〇〇三

- 一〇・二三 作文選定委員会立ち上げる
- 一〇・二六 作文処理要項・一覧表作成
- 一一・六 吉田温夫氏夫妻を資料室「赤い鳥・木村文助」に案内
- 二〇〇四

- 二・一九 文集「新・村の子供」発行
- 二・二二 「新・村の子供」完成(函館新聞)
- 二・二九 NHK大阪テレビ局より来町・「赤い鳥・綴り方」関係取材
- 三・四 「郷土の思い20点」(北海道新聞)
- 三・二三 NHK大阪テレビ局より来町「五月五日放送ビデオ撮り」
- 三・二八 木村明、兵藤千秋家族を資料室「赤い鳥・木村文助」に案内

木村明氏訪れる

三月二八日、資料室「赤い鳥・木村文助」コーナーを訪れた。明氏は文助の子女せいの夫。その子千春氏ら四人が苦小牧市から車で来てくれた。大野に文助関係のコーナーがあると聞き及び朝五時過ぎに出発、九時三〇分に着いた。

明氏は文助の思い出や書いた文章を思い出して語ってくれた。また千春氏は文助の資料や写真が整っていて「来て良かった」の思いが伝わったようだ。案内した木下、杉目会員、八木橋係長と懇談、記念写真を撮った。

NHK大阪テレビ局スタッフ来町

五月五日放送の「その時歴史が動いた」の関連で上野デレクター一行四名が三月二二日、大野平野の文月地区、田島たきさん、赤井千代さん宅を訪れ半日かかって取材・ビデオ撮りした。

子どもの日に因み「赤い鳥」に載った童謡「カナリア」が主題で大野の綴り方も関連で放映の模様。

『新・村の子供』（付録）

募集して選んだ町内小学生作文で最優秀の一〇編を一緒にしてある。大野町の良さ、課題、学校で学んだことの実践などである。

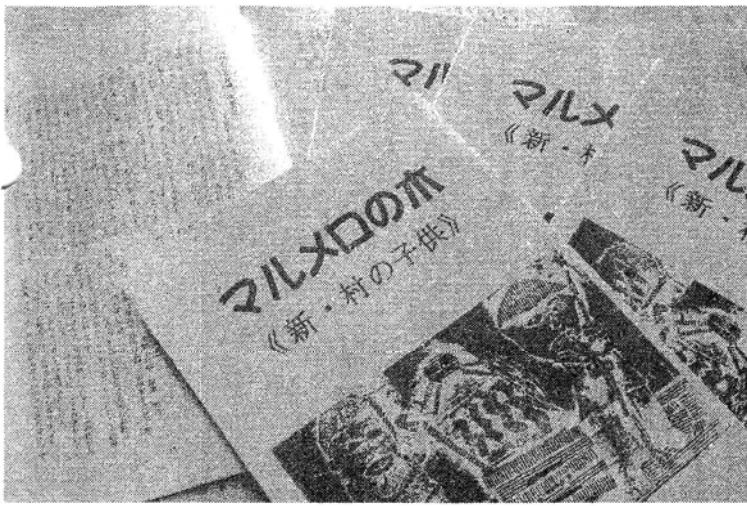
マチの未来などつづった『平成版』

「新・村の子供」完成

町内児童の20点収録

大野町文保研

【大野】大正時代の児童のつづり方(作文)集「村の子供」の発行80周年を記念し、大野町文化財保護研究会(木下寿実夫会長)が編集を進めていた「新・村の子供」が完成した。町内の児童から募った作品20点を収録した『平成版』で、木下会長(67)は「現代の子供たちの作品を1冊にまとめることができ、うれしい。大野のつづり方の伝統が、受け継がれていくことを期待したい」と話している。



20点の作品を収めた「新・村の子供」

1924(大正13)年、大野尋常高等小学校は子供たちの作文を集めて「村の子供」を編さん。新たな作品を加え27(昭和2)年、全国に向け発売し、注目を集めた。今年も同校が「村の子供」を作ってから80周年の節目に当たり、同校が平成版を発行することを計画。町内の各小学校に昨年、呼び掛けたところ、138点の応募があった。会員6人でつくる作文選定委員会が審査を行い、最優秀賞と優秀賞の各10点を収録した。A4判の白黒16ページで50部を印刷。家族や友達、マチの未来など、どの作品からも子供たちの素直な思いが伝わってくる1冊となった。入賞者や各校などへ配布したほか、町郷土資料室で読むことができる。木下会長は「今後もこの良き伝統が残り、100周年版、150周年版とマチの子供たちの作品集作りを続けていってほしい」と語っている。

(奥山秀俊)

● 大野町文化財保護研究会
「村の子供」80年記念し新文集発刊

郷土への子供の思い、20点



【大野】町文化財保護研究会(木下寿実夫会長)はこのほど、町内の小学生の作文を掲載した文集「マルメロの木△新・村の子供▽」を作成した。身近な生活や町を題材に自由に書いた作文二十点を掲載、郷土への子供の素直な思いが伝わる一冊となっている。(松井伊勢生)

大野尋常高等小学校(現・大野小)でつづり方(作文)指導に力を注いだ木村文助が、一九二四年(大正十三年)に文集「綴り方生活・村の子供」を発行し、八十年となるのを記念したもの。当時、木村は標準語ではなく、地域の言葉での表現を勧め、子供の作品の多くは作家鈴木三重吉主宰の児童文芸雑誌「赤い鳥」に掲載された。同会は、今の子供の作文で「村の子供」を再現しようとして計画し、昨年八、九月に町内の四小学校の児童から作品を募集。百三

作成された小学生の文集「新・村の子供」

方言の会話ある作品も

十八点が集まり、六人の選定委員が、最優秀賞と優秀賞各十点を選んだ。内容は、総合学習で知ったことを基にまちづくりについて提案したもの、街でマナーを守るよう訴えたもの、日常生活や祖父母に聞く昔話から感じたことなどさまざま。方言の会話をそのまま取り入れた作品もある。木下会長は「書くことで身の回りを見直してもらう狙いで始めた。ただの感想文ではなく、大野のことを真剣に考えるものばかりだ」と話している。文集はA4判、十六ページ。五十部を作成し、学校や掲載した児童全員に配布した。希望者は、町郷土資料室(町内本町)などで閲覧できる。問い合わせは、同資料室☎77・6681へ。

資料閲覧(赤い鳥・木村文助コーナー)

「大野町郷土資料室」

町市街地に入り大野小学校の校門を入って右側、木造の建物です。

〇四一―二二〇一

北海道亀田郡大野町本町二〇〇

TEL (〇一三八) 七七・六六八一

開館；九・〇〇～一二・〇〇

一三・〇〇～一六・〇〇

(町教委社会教育課が対応します)

・ 休館日もありますので遠方の方は事前に連絡ください

・ 函館方面↓車で、国道二二七号に入り大野町市街地まで、20～30分。

・ 道北方面↓車で、国道五号の大沼トンネルを抜け、五分ほどして

大野方向に右折し五分で着きます。



発行

大野町文化財保護研究会

(ぶんぼけん)

〇四一―二二〇一

北海道亀田郡大野町本町六八

会長 木下 寿実夫

(〇一三八) 七七・八五三五